

株式売却準備が進められる日立化成 国内化学系企業との技術シナジーの可能性

—VALUENEX 技術トレンドレポート—

1. はじめに

かねてからグループ内の再編を加速させている日立製作所(6501)が、上場子会社である日立化成(4217)の売却を検討し、2019年8月9日には売却のための一次入札が行われた。現在、国内外の投資ファンドや、化学系企業などが買収先として噂されており、どの企業が最終的に日立化成を買収するのか注目を集めている。

今回は日立化成および三菱ケミカルホールディングス(4188)、三井化学(4183)、日東電工(6988)、カネカ、(4118)信越化学(4063)、住友ベークライト(4203)、JSR(4185)らの公開特許を収集し、日立化成と国内化学メーカーとの技術シナジーの可能性について特許俯瞰ツール TechRadar を用いて解析を行っていく。

2. 特許俯瞰解析

調査対象は、日本国公開公報の内、出願人・権利者が日立化成、三菱ケミカルホールディングス、三井化学、日東電工、カネカ、信越化学、住友ベークライト、JSR の 8 社の特許 (期間 : 1993/01/01~2019/05/31) とした。公開特許件数は 159,086 件であるが、TechRadar の解析上限である 10 万件にランダムサンプリングしたものを母集団として俯瞰図を作成した (図 1)。

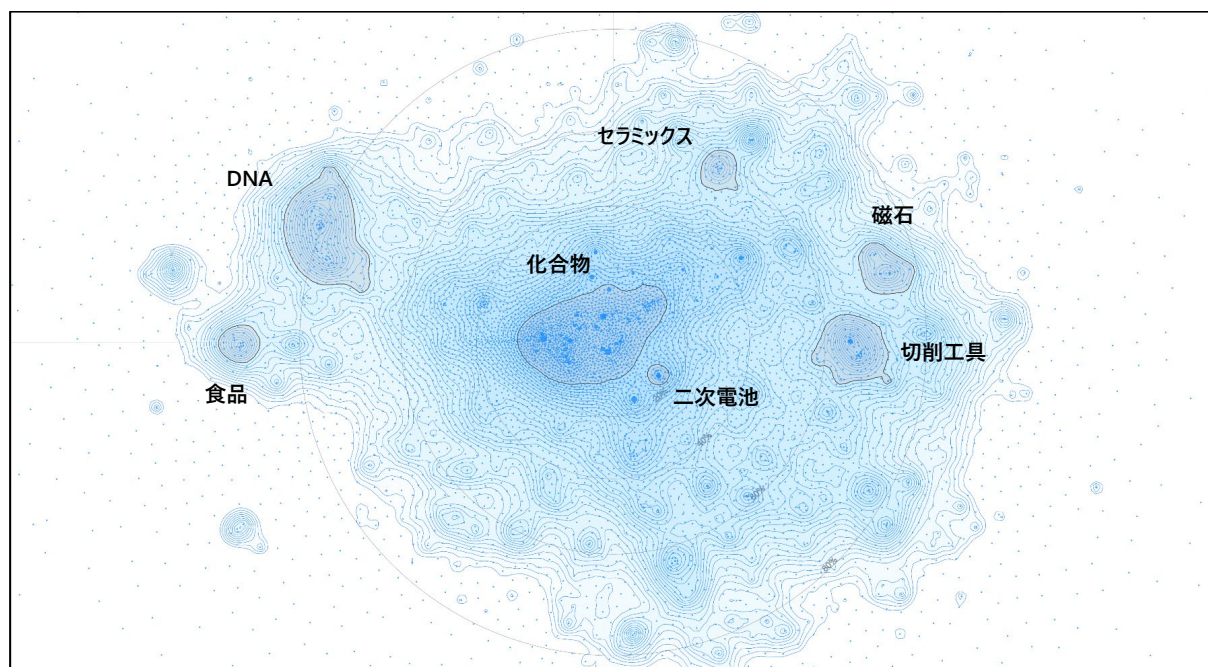


図 1. 国内主要化学メーカー8社の特許俯瞰図と主な技術領域

俯瞰図中央に、樹脂を中心とした化合物や、液晶材料、回路基板、二次電池など材料・電子部品関連の特許が

多く集積しており、また周辺領域に、セラミックス、磁石、切削道具、DNA や食品に関する領域が現れているのがわかる。

図1の俯瞰図の中で、日立化成の特許のみ表示して作成したのが、図2である。紫色の矢印は、技術トレンド、すなわち特許の重心(年別の座標値の平均)の年次推移を示している。日立化成は、研磨材、セラミックス、アンテナ、炭素繊維、切削工具等を得意とし、技術トレンドは大きく変化していないことがわかる。

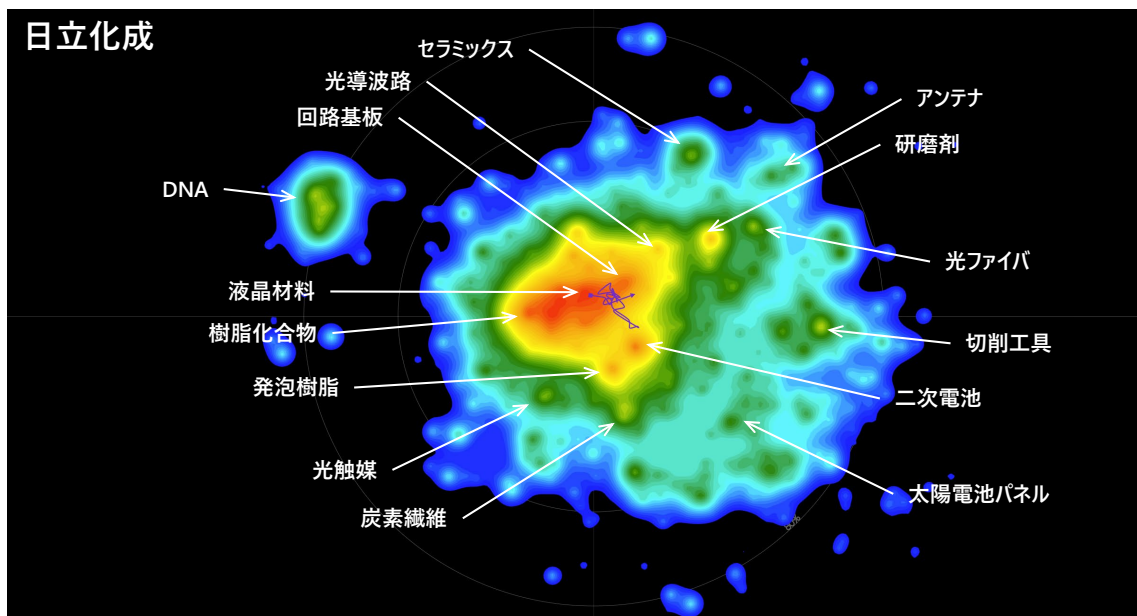


図2. 日立化成の特許俯瞰図

同様に、他の5社の技術領域の特徴を表1に示す。

表1. 各社の技術領域

各社共通	樹脂化合物、液晶材料、回路基板、発泡樹脂、二次電池、DNA
日立化成	研磨材、セラミックス、アンテナ、炭素繊維、切削工具
三菱ケミカル	触媒、炭素繊維、光触媒、研磨材、セラミックス、食品
三井化学	導波路、触媒、CNT、セメント
日東電工	中空糸膜、分離膜、医療用チューブ
カネカ	炭素繊維、中空糸膜、砥石、カテーテル
信越化学	セラミックス、シリコンウェーハ、砥石、セメント
住友ベークライト	光導波路、カテーテル、食品、摩擦材
JSR	研磨材、光導波路、CNT

3. 技術シナジーの可能性

日立化成と各化学メーカーとの技術領域の大きさとその位置に注目し、技術シナジーの可能性を評価する。

日立化成と各化学メーカーとの俯瞰図上の技術領域の大きさと位置を表し、日立化成と各化学メーカーの技術が重複しているのかなどの関係を整理したのが、図3 (A~D) である。

- A. 日立化成の技術を取り入れることで現在の事業領域を広げる可能性がある：日東電工、JSR
技術領域が、日立化成の技術領域内に包含されている。

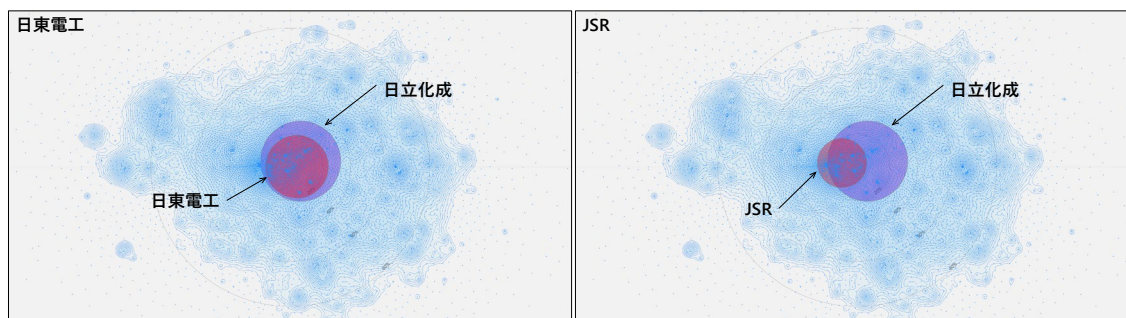


図3 (A). 日立化成と各化学メーカーの技術領域の広さと位置
【日東電工 (左)、JSR (右)】

- B. 両者の技術を合わせることで既存製品のシェアを大きくする可能性がある：住友ベークライト
技術領域が、日立化成と位置・大きさともほぼ等しく、技術的に非常に近く競合関係にあると考えられる。

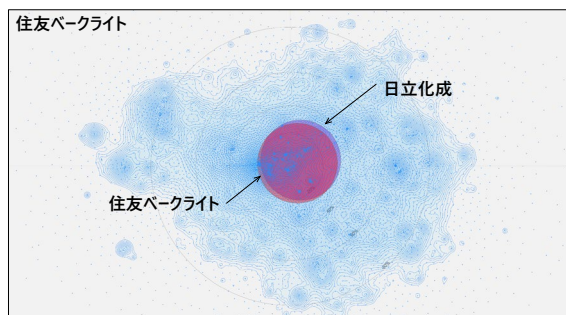


図3 (B). 日立化成と各化学メーカーの技術領域の広さと位置
【住友ベークライト】

- C. 現在の事業の周辺領域・応用領域での新たな製品などのシナジーの可能性がある
 : 信越化学、三菱ケミカル、カネカ
 技術領域が、日立化成と比べて大きく、日立化成の技術領域を包含している。

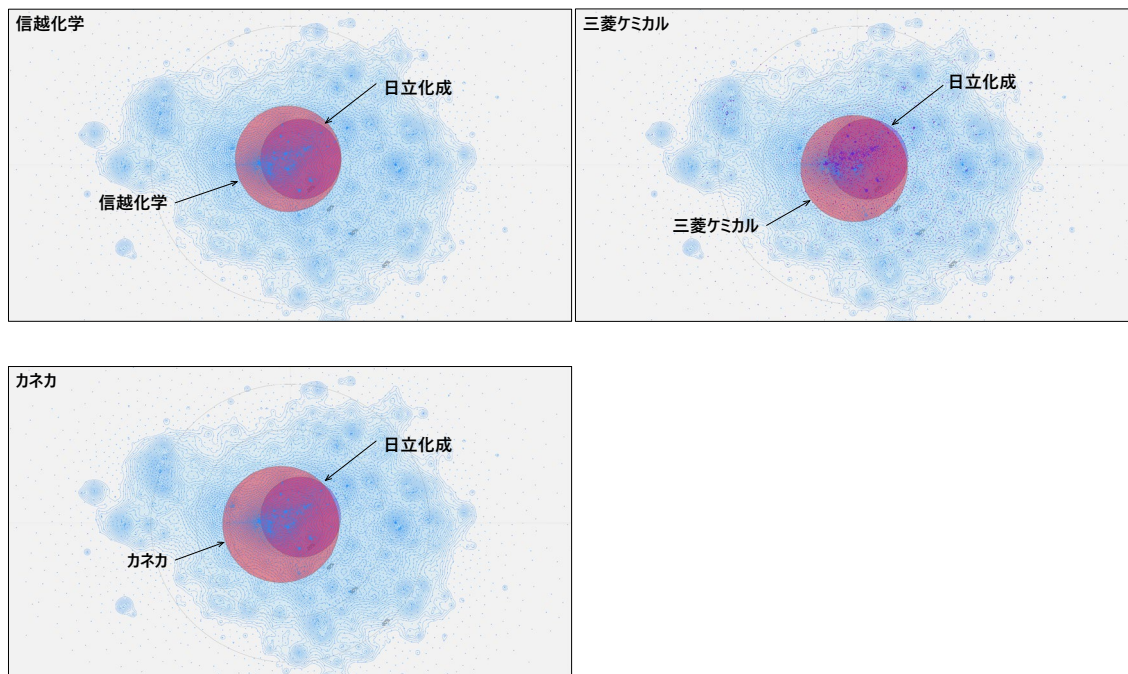


図3 (C). 日立化成と各化学メーカーの技術領域の広さと位置
 【信越化学 (左上)、三菱ケミカル (右上)、カネカ (左下)】

- D. 両社の技術を活かした技術シナジー効果の可能性が大きい：三井化学
 技術領域が、日立化成と同程度の大きさで、ある程度離れた位置にある。

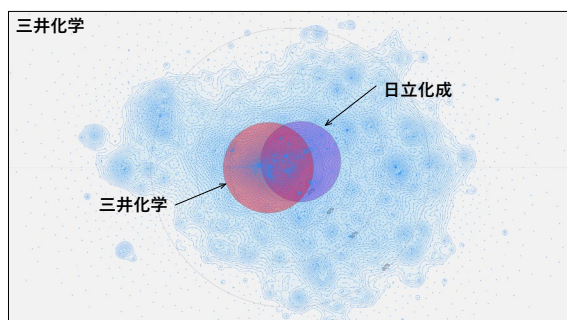


図3 (D). 日立化成と各化学メーカーの技術領域の広さと位置
 【三井化学】

近年、武田薬品(4502)のシャイアー買収や東芝(6502)の事業再編によるメモリ事業の売却など、国内メーカーでの M&A・事業再編のニュースが増加している。本レポートで取り上げた日立化成の売却もこうした国内メーカーの事業再編の一例であり、その売却先がどこになるか注目を集めている。企業が M&A をするにあたっては様々な要素を検討することが想定されるが、本件で解析を行ったように両社の技術領域を精度よく評価することは不可欠である。今回は、対象年の特許全体の領域の情報を用いて解析を行ったが、各社の「技術トレンド」も

合わせて評価を行うことで、より戦略的な考察を行うこともできる。

本レポートでは国内の化学メーカーとの技術シナジーの可能性について解析を行ったが、日立化成の買収には国内化学系メーカーだけでなく、電子部品など他業界のメーカーや海外メーカー・ファンドが名乗りを上げることも想像される。VALUENEXでは、今後も、技術シナジーの軸で国内外のメーカーの事業再編・M&Aについて注目していきたい。

<免責事項>

本情報は、情報の提供を目的としており、投資その他の行動を勧誘することを目的としたものではありません。有価証券その他の取引等に関する最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行って下さい。情報提供元である VALUENEX 株式会社は、本情報を信頼しうる情報をもとに提供しておりますが、その内容に過誤、脱落等ありこれが原因により、または、本情報を利用して行った投資等により、お客様が被った、または、被る可能性のある直接的、間接的、付随的または特別な損害またはその他の損害について、一切責任を負いません。本情報の正確性および信頼性を調査確認することは、VALUENEX 株式会社の債務には含まれておりません。本情報の内容は、VALUENEX 株式会社の事由により変更されることがあります。本情報に関する一切の権利は、VALUENEX 株式会社に帰属します。本情報は、お客様ご自身のためにのみご利用いただくものとし、本情報の全部または一部を方法の如何を問わず、第三者へ提供することは禁止します。

VALUENEX 株式会社
〒116-0002 東京都文京区小日向 4-5-16
ツインヒルズ茗荷谷
TEL : 03-6902-9834

*弊社では ASP サービス「DocRadar」「TechRadar」ならびに技術調査業務を含むコンサルティングサービスを提供しております。

ご関心のある方は下記までご連絡ください。

<問い合わせ先>

[VALUENEX 株式会社 ソリューション事業推進本部](#)

TEL:03-6902-9834

[mail:customer@valuenex.com](mailto:customer@valuenex.com)

<http://www.valuenex.com>

20190830JO